



第29回ワン・ワールド・フェスティバル
Online Week「SDGs交流ひろば」の
実績報告書

主催者 ： ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
 (TEL06-677-1039、FAX06-6777-2050)

大阪市東住吉区杭全1丁目15番18号
大西ビル3階 杭全事務所

1) 「第2回 SDGs交流ひろば」開催実績

「第2回 SDGs交流ひろば」は、ワン・ワールド・フェスティバルのプログラムの一つとして開催されました。今回の企業のSDGsの取り組みの紹介はWebで実施しましたが、特別企画として「シンポジウム」を開催しました。積極的にSDGsの活動に取り組まれている企業3社に活動紹介をしていただきました。

また、シンポジウム参加企業と学生とのセッションも、学生側からの質問に対し、企業側から丁寧な説明が行われ、学生にとって企業の現況を知ることができた良い機会となりました。

今回は、関西の企業を中心に11社が参加され、SDGsの様々な取り組みを紹介していただき、多くの方々にその活動を知っていただきました。今後、このような交流ひろばを通じて、様々なアクターとの交流を深め、継続した活動につなげる所存でございます。今後ともご支援をお願い致します。

1. 開催日 : 2022年2月1日（火）～2月28日（月）
2. 開催場所 : ワン・ワールド・フェスティバル特設サイト
3. 参加企業 : 11社（株）新井組、岩谷産業(株)、(株)クボタ、南海電気鉄道(株)、日本盛(株)、
阪急阪神ホールディングス(株)、サラヤ(株)、積水ハウス(株)、大日本印刷(株)、
日立造船(株)、ユニ・チャーム(株)
4. 視聴者数 : 特設サイト 視聴者数 65,000回数（2022年7月20日現在93,711回数）
※特設サイトは今年の10月頃まで配信を継続する予定です。
5. 主催者 : ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会
6. 事務局 : ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会事務局
（特定非営利活動法人関西国際交流団体協議会内）
（TEL06-677-1039、FAX06-6777-2050）

2) SDGs交流ひろば(プログラム内容①)

2030年に向けた「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成は、企業が積極的に参加することで、企業の特徴であるスケール感とダイナミズム、経済力により、大きく前進するものと考えられます。このため、「SDGs交流ひろば」は、企業のSDGsの活動を多くの人々に知っていただくために開催されました。

第1部

SDGsの達成に向けた企業の活動への応援ビデオメッセージ

(開催期間:2月1日~2月28日)

- SDGsの目標達成に向けた企業の活動についての応援ビデオメッセージ
2025年日本国際博覧会協会広報戦略局長 堺井啓公 氏



- 企業とNOG・NPOとの協働の可能性についての応援ビデオメッセージ
(公社)アジア協会アジア友の会事務局次長 柿島裕 氏



第2部

企業が集う「SDGs交流ひろば」参加企業のSDGsの取組活動の紹介

(開催期間:2月1日~2月28日)

■(株)新井組

未来を築く使命を担う
明日のソリューションプロバイダーへ



■岩谷産業(株)

イワタニが描く未来の水素エネルギー社会



■(株)クボタ

食料・水・環境の循環で、持続可能な社会をめざす



2) SDGs交流ひろば(プログラム内容②)

■(株)クボタ

クボタ創業者ストーリー (株)クボタは、1890に久保田権四郎によって設立された。)



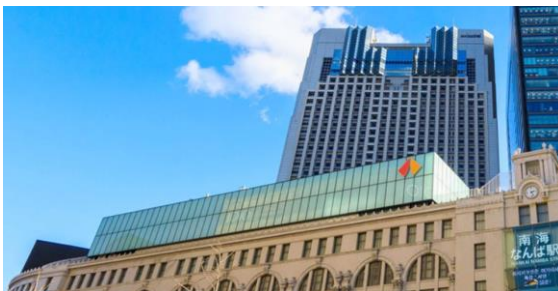
■サラヤ(株)

SARAYA HEALTH SOLUTION
サラヤの健康関連プロジェクトのご紹介



■南海電気鉄道(株)

沿線エリアを中心に、地域住民・自治体・企業等、さまざまなステークホルダーと共創・協働し、企業理念の実践を通じて、「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立をめざします。



■サラヤ(株)

SARAYA ECO SOLUTION
サラヤの環境関連プロジェクトのご紹介



■積水ハウス(株)

企業ビジョンの中核にESG経営を据えて、持続的な取り組みを行いながら、新たな社会課題に対しても常に取り組み続けていきます。



■日本盛(株)

私たちは、国連が提唱するSDGに賛同し、これからも経営理念を根底に据え、「もっと、美味しく、美しく。」のスローガンのもと、持続可能な社会の実現に積極的に取り組んでまいります。



■サラヤ(株)

SARAYA HYGIENE SOLUTION
サラヤの衛生関連プロジェクトのご紹介



■大日本印刷(株)

DNPの考えるサステナビリティ
「持続可能な社会の実現に向けて(新しい価値)を生み出していく」



■阪急阪神ホールディングス(株)

サステナビリティ宣言:
暮らしを支える「安全・快適」、暮らしを彩る「夢・感動」を、未来に



2) SDGs交流ひろば(プログラム内容③)

■日立造船(株)

私達は、全役職員が「Hitz Value」の理解・実践を通じて企業活動を行うことで、社会の持続的発展に貢献し、長期的な企業価値の向上を目指します。



■ユニチャーム(株)

ユニ・チャームはSDGs達成に貢献することを「パーパス」(存在意義)と考えています。このパーパスを「ミッション」「ビジョン」「バリュー」の3つに分けて具体化しました。



サステナビリティ

第3部

シンポジウム：企業のSDGsの活動の内容及び社会貢献活動におけるNGO/NPOとの協働の現況と将来性について

開催期間：2月12日(ライブ配信) 2月14日～28日継続配信)

■基調講演及び講演

基調講演：サラヤ株式会社 代表取締役社長 更家 悠介 氏

企業講演：積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 部長 小谷 美樹 氏

：株式会社クボタ KESG推進部 担当部長 廣瀬 文栄 氏

■企業代表と学生とのパネルディスカッション

●参加者

1)企業 サラヤ株式会社 代表取締役社長
積水ハウス株式会社 ESG経営推進本部 部長
株式会社クボタ KESG推進部 担当部長

更家 悠介 氏
小谷 美樹 氏
廣瀬 文栄 氏

2)学生 同志社大学 3回生、ベトナム
同志社女子大学 3回生、日本
兵庫県立大学 3回生、日本
(学)エール学園 留学生 インド

グエン ドク マイ チャン 氏
林 真由 氏
三谷 彩暖 氏
ギルディヤル ニプルン 氏

シンポジウム等についてはワンワールドフェスティバル特設サイトからご視聴いただけますので是非ご確認ください。

https://onfes-live.net/sdgs_field/

3) 「SDGs交流ひろば」参加企業一覧とSDGs取り組み状況

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
項目/企業名		(株)新井組	岩谷産業(株)	(株)クボタ	南海電気鉄道(株)	日本盛(株)	阪急阪神ホールディングス(株)	サラヤ(株)	積水ハウス(株)	大日本印刷(株)	日立造船(株)	ユニ・チャーム(株)
1	貧困をなくそう			●						●		●
2	飢餓をゼロに			●						●		
3	すべての人に健康と福祉を	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	質の高い教育をみんなに	●		●	●	●	●		●	●	●	●
5	ジェンダー平等を実現しよう	●	●	●	●		●	●	●	●	●	●
6	安全な水とトイレを世界中に	●		●	●	●		●	●	●	●	●
7	エネルギーをみんなにそしてクリーンに	●	●	●	●	●	●		●	●	●	
8	働きがいも経済成長も	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
9	産業と技術革新の基盤をつくろう	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	
10	人や国の不平等をなくそう	●	●	●	●			●		●	●	●
11	住み続けられるまちづくりを	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
12	つくる責任 つかう責任	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
13	気候変動に具体的な対策を	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
14	海の豊かさを守ろう		●	●		●	●		●	●	●	●
15	陸の豊かさを守ろう	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●
16	平和と公正をすべての人に	●	●	●	●		●			●	●	
17	パートナーシップで目標を達成しよう	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

4) 今回の参加企業の特徴

「SDGs交流ひろば」参加企業のSDGs取り組み状況について見てみますと、「1. 貧困をなくそう」、「2. 飢餓をゼロに」に対応している企業が極端に少ないのが特徴となっています。

全世界で極度の貧困の中で暮らす人の数は、1990年の19億人から、2015年の8億3,600万人へと半分以下に減少しています。表面的には改善に向かっているように見えますが、貧困は、教育をはじめ多分野に渡る基本的サービスへのアクセス不足、社会的な差別や排除、意思決定からの除外など、多様な形態を取ります。単に経済的な解決を目指しているわけではありません。SDGsの目標1では、こうした形態の貧困からも世界中の人々が解放されることも目指しています。（出典：国連開発計画（UNDP）公式サイトより）

参加企業すべてが対応している項目として、「3. すべての人に健康と福祉を」「8. 働きがいも経済成長も」「9. 産業と技術革新の基盤をつくろう」「12. つくる責任つかう責任」「13. 気候変動に具体的な対策を」「17. パートナースhipで目標を達成しよう」の項目が挙げられます。

企業が取り組んでいる重点を置く目標について2017年との比較では、目標13（気候変動に具体的な対策を）が76%と最も多く、次いで目標8（働きがいも経済成長も）と目標12（つくる責任、つかう責任）が75%と続いています。今回の参加企業においても、3つの項目は参加企業すべてが対応していることが確認できます。

特に、最近の企業の働き方改革の取り組みによって「8. 働きがいも経済成長も」に直結していることもあり、全参加企業が対応しています。また、貧困に直結する「13. 気候変動に具体的な対策を」についても、企業側の興味は高く、全参加企業が取組目標に掲げています。

また「5. ジェンダー平等を実現しよう」も企業の興味は高く、企業内での女性の管理職の増加等積極的に対応している企業が増加しているのが最近の傾向となっています。

具体的な例として、積水ハウス(株)の女性の活躍推進の一環として、管理職の育成・登用について、「積水ハウスウィメンズカレッジ」を開講。2014年開講し、2020年までに96人が卒業し、そのうちすでに61人が管理職に登用されています。大日本印刷(株)では、女性活躍推進法に基づく第2期行動計画(2019～2021年度)である、①女性管理職比率を7.0%以上にする、②女性管理職層・リーダークラスの人数を2倍にするという目標について、これまでの活動を踏まえて、現時点で2022年3月末での達成を見込んでおられます。

岩谷産業(株)では、総合コース女性の積極的な採用やライフイベントとの両立支援、働き方に関する多様な選択肢の拡充などを行い、女性活躍推進の取り組みを強化し、2022年4月1日時点の女性管理職比率は6.5%まで上昇。今後も継続的に女性管理職比率を高めていくため、若手・中堅層向けの施策をはじめとし、さまざまな取り組みを行っています。

5) 今後の展望・参加企業の目指すところ(1)

新型コロナウイルス感染拡大は依然として威力が衰えず、第7波がまん延し経済活動に影響を与えている状況下にあります。コロナ禍におけるSDGsの取組にどのような変化が現れているのでしょうか。今回参加された企業の今後の取組を見てみますと、各社ともSDGsを社業に取り組みむことで将来の発展を考えられています。今後も2030年のSDGsの目標達成に向けて歩みを止めることはなく、活動が継続されると予測されます。今後のSDGsの対応については、今回参加企業の具体的な取り組み及び目標策定等を検証し、企業が目指しているところを探ることで今後の展望といたしたく存じます。

(株)クボタでは、事業を通じたサステナビリティとして、事業そのものを通じて持続可能な社会の発展に貢献し、人々の豊かな暮らしを支えるを目標に掲げています。事業を通じて、1)農業の効率化によって、豊かで安定的な食料の生産に貢献、2)水インフラの整備によって、安心な水の供給と再生に貢献、3)社会基盤の整備によって、快適な生活環境の創造と保全に貢献、の3つの取り組みを通じた社会貢献を推進されています。また、食料・水・環境領域においても事業を展開し、人々の豊かな暮らしを支えるとともに、それを担う地球環境にも配慮し、環境保全活動を推進されています。SDGsやパリ協定などのさまざまな社会動向をふまえ、環境保全に関する中長期目標を策定し、環境経営の取り組みを通じて持続可能な社会の発展に貢献することを目指されています。

Hitzグループ(日立造船(株))は、環境問題への積極的取り組みが企業と社会との信頼関係、共生関係を構築する必須条件であり、企業の社会的責務であるとの認識に立ち、環境保全の推進を掲げられています。再生可能エネルギーの提供(CO2の削減)、水不足の解消・産業発展に伴う環境悪化の防止、食の安全や食品ロス、食料問題の解決、強靱な街づくり～自然災害から人命を守る～を通じて、サステナブルで、安全・安心な社会の実現に貢献し、製品と活動を通じて、SDGsの目標達成に全力をあげることを宣言されました。

阪急阪神ホールディングスグループは、『『安心・快適』、そして『夢・感動』をお届けすることで、お客様の喜びを実現し、社会に貢献する』というグループ経営理念を掲げ、持続的な成長を志向するとともに、その基盤となるESG(環境・社会・企業統治)に関してもさまざまな取組を推し進めています。また、サステナブル経営を進めるうえで重きを置く6つのテーマ「1)安全・安心の追求、2)豊かなまちづくり、3)未来へつながる暮らしの提案、4)一人ひとりの活躍、5)環境保全の推進、6)ガバナンスの充実」を決め、これまで以上に真摯に社会の課題とニーズに向き合い、その解決に貢献できるよう、グループ一丸となってサステナブル経営を推し進めておられます。

5) 今後の展望・参加企業の目指すところ(2)

(株)新井組は、2030ビジョンおよび中期経営計画に基づき、優先して取り組むべきESGの重要課題として、7つのマテリアリティ「1)環境に配慮した社会の実現、2)レジリエントな社会の実現、3)技術の強化と品質の向上、4)労働の質の向上と人財の育成、5)コーポレートガバナンス、6)リスクマネジメント、7)コンプライアンス」を特定しています。2030年の持続可能な社会の実現に向け、7のマテリアリティとSDGs各課題の双方の解決に向け、事業活動を通じて取り組んで行くことを宣言されています。

南海電気鉄道(株)は、沿線エリアを中心に、地域住民・自治体・企業等、さまざまなステークホルダーと共創・協働し、企業理念の実践を通じて、「持続的な企業価値の向上」と「持続可能な社会の実現」の両立をめざしています。7つのサステナブル重要テーマ(マテリアリティ)「1)安全・安心・満足のさらなる追求、2)賑わいと親しみのあるまちづくり、3)夢があふれる未来づくり、4)豊かな暮らしの実現、5)一人ひとりが能力を発揮できる職場・ひとづくり、6)地球環境保全への貢献、7)誠実で公正な企業基盤強化」を設定し、継続的に取り組みを進めることで、事業活動を通じた社会課題の解決を目指されています。

日本盛(株)は、経営理念・社是に基づいて事業活動を行う事が、SDGsの取り組みに繋がると考えています。事業活動を通じて従業員とお客様のクオリティ・オブ・ライフを向上させ、持続可能な社会の実現に貢献すること、その為に、【健康】【環境】【地域貢献】の3つのカテゴリにわけ、それぞれの優先課題9つ(プライオリティナイン)を設定し、具体的な行動目標を掲げ実践されています。

ユニ・チャーム(株)は、「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成に貢献することをパーパスとし、この「事業を通じてSDGsに貢献する」ことこそ、私たちの考える「サステナビリティ」と考えて活動されています。健康寿命延伸/QOL向上、性別や性的指向等により活躍が制限されない社会への貢献、パートナー・アニマル(ペット)との共生、育児生活の向上、衛生環境の向上の項目を重要取り組みテーマとし、2030年の目標達成を目指されています。

サラヤ(株)は、地球温暖化、生物多様性の減少、プラスチック海洋汚染、貧富の格差の拡大、など地球と社会の持続性に警鐘が鳴らされている社会問題について、継続して問題意識を持ち、SDGsへの対応を継続することを宣言されました。地球温暖化に向けては、NPO法人ゼリ・ジャパンに協力し2020年11月に設立された「気候非常事態ネットワーク」を支援し、またビジネスを通じた対応については、関連会社である株式会社関西再資源ネットワークと連携し、食品生ごみや農業系廃棄物などのバイオマスを活用した、メタン発酵の社会実装に向けて対応されています。また具体的な活動(衛生の改善、医療衛生、公衆衛生、食品衛生、環境配慮、自然派のコンシューマー商品、自然派のコンシューマー商品、グローバルな展開)を通じて、SDGs目標達成に向けた取り組みを推進されています。

5) 今後の展望・参加企業の目指すところ(3)

積水ハウス㈱は、マテリアリティに「良質な住宅ストックの形成」「持続可能な社会の実現」「ダイバーシティ&インクルージョン」を新たに特定しました。特に「ダイバーシティ&インクルージョン」を成長のドライバーに据えるため、組織や職場において、多様性を互いに尊重し、認め合うこと。そして、「目標や役割が明確で情報が共有されている」「お互いを尊重し信頼し合っている」「主体的に参画し貢献している」「組織の一員として活かされている」という状態や環境を構築し、心理的安全性のある職場をつくっていくことが、多様な力による価値の創造につながると考え推進されています。また、将来的に目指す社会として、脱炭素社会 人と自然の共生社会 資源循環型社会 健康・長寿先進社会 ダイバーシティ社会を挙げられています。

岩谷産業グループは、「世の中に必要な人間となれ、世の中に必要なものこそ栄える」という企業理念のもと、ガス&エネルギーを軸とした事業を通じて、持続可能な成長と社会課題の解決のために、5つマテリアリティ「1)地域を支えるエネルギーインフラの構築、2)CO2フリー社会への移行、3) 持続可能な社会の実現、4)ガバナンスの強化、5)活力ある職場づくり」を設定し、SDGsの目標達成に向けた活動を推進されています。また、多様な社員一人ひとりが最大限の力を発揮できる職場風土を醸成し、新たな価値を創出し続けられる組織を作ることで、企業価値向上につなげるダイバーシティ&インクルージョンの推進もされています。

大日本印刷㈱は、持続可能な社会の実現に向けて「新しい価値」を生み出していくをスローガンに「持続可能な社会へ、新たな価値を」「リスクとチャンス」「4つの成長領域における事業化の推進」を掲げ、「4つの成長領域」で新たな価値を提供されています。CSRマネジメントとして推進する8つのテーマ「1)SDGsに貢献するビジネス、2)公正な事業慣行、3)人権・労働、4)環境、5)責任ある調達、6)製品の安全性・品質、7)情報セキュリティ、8)企業市民」を定め、持続可能なビジネスを行うため、中長期ビジョンの達成に向けて優先的に取り組む8つのテーマの指標を設定し、継続的な活動につなげられています。

【事務局】

今回ご参加いただいた全企業のSDGsの取り組みは、事業そのものを通じて持続可能な社会の発展に貢献するものであり、各企業が設定した優先的なマテリアルを継続して活動する事が、企業にとってはベストであり、また同時にSDGs目標達成に寄与するものであることを参加された企業を通じて学ぶことができました。また、ダイバーシティ&インクルージョンの推進も、日本が抱える社会問題を解決する一つの有効な手段になるかもしれません。今後の動向を見守ることが重要と考えています。

最後になりましたが、第2回SDGs交流ひろばにご参加いただきました各企業のご担当者様に心より御礼申し上げます。有難うございました。